

コード	201040602
記入日	H23.5.31

# 事務事業途中評価表

課コード	113
課名	環境課
課長名	白石 英徳
担当者	平田 竹喜

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	旧ごみ焼却場跡地有効活用事業
----------	----------------

事業種類	継続事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 23 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	4
施策コード	201	施策名称	しまの自然とともに生きる環境づくり	項コード	2
基本事業コード	20104	基本事業名称	ごみ減量化とリサイクルの推進	目コード	2
事務事業コード	2010406	事務事業名称	ごみ焼却施設管理費	細目コード	1050
関連計画	新上五島町一般廃棄物処理基本計画・循環型社会形成推進地域計画		法令・条例規則等	廃棄物処理法	

## 計画 ( PLAN )

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標								
(対象1)	旧ごみ施設	(対象指標1)	8施設							
(対象2)	ストックヤード	(対象指標2)	8施設							
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）								
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)		
(全体計画) ・旧ごみ焼却施設 8施設 ・ストックヤード 8施設		(平成22年度) ・旧ごみ焼却施設解体 2施設 (新魚目、若松) ・ストックヤード 2施設 (新魚目、若松)		解体施設数	8施設	75%	既存施設+解体施設	平成23年度		
				解体施設数	2施設	100%		平成22年度		
				①	(達成率分析)	H22年度ごみ焼却施設2施設が解体した。				
				目的：何をしたいのか		・旧町時から残存していた旧ごみ焼却施設を解体し、漂流・漂着ごみとスラグの一時保管場所を建設したい。		ストックヤード建設予定数	8施設	75%
ストックヤード建設数	2施設	100%	平成22年度							
②	(達成率分析)	H22年度2施設を建設した。								
(指標名称)		(指標数値)	(達成率)					(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
・旧町時から残存していた旧ごみ焼却施設を解体し、漂流・漂着ごみとスラグの一時保管場所を建設したい。		①		解体施設	8施設	75.0%	既存施設数+解体施設数	平成23年度		
				解体施設数	2施設	100%		平成22年度		
				(達成率分析)	H22年度中に2施設を解体した。					
				・旧町時から残存していた旧ごみ焼却施設を解体し、漂流・漂着ごみとスラグの一時保管場所を建設したい。		②		ストックヤード建設数	8施設	75%
ストックヤード建設数	2施設	100%	平成22年度							
(達成率分析)	H22年度中に2施設を建設した。									

## 実施 ( DO )

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 施設	8	6	4	2	2	2			
	② 施設	8	6	4	2	2	2			
成果指標	① 施設	8	6	4	2	2	2			
	② 施設	8	6	4	2	2	2			
総事業費 C (A+B)	千円	929,763	623,389	344,623	256,200	278,766	328,940			
直接事業費 A	千円	905,963	605,189	332,023	250,600	273,166	323,340			
人件費 B	千円	23,800	18,200	12,600	5,600	5,600	5,600			
内訳	従事職員数	人	3.4	2.6	1.8	0.8	0.8			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	301,314	198,898	110,280	83,533	88,618	107,501		
	県補助金	千円	58,175	20,708	15,109	11,960	5,599	31,106		
	起債	千円	530,800	385,700	210,400	145,000	175,300	175,400		
	その他	千円								
一般財源	千円	39,474	18,083	8,834	15,707	9,249	14,933			

**評価**

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	ダイオキシン類の汚染物が残存しており、施設の周辺環境に悪影響を及ぼすため。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	使用しなくなった施設をそのまましておくことは出来ない。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	汚染物が残存している施設であるため適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	順次、汚染物が残存した施設を解体していることから、成果は十分である。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	現在の計画で十分成果は得られる。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	汚染物が残存している施設なので、周辺環境を悪化させる危険性がある。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	類似事業が無い。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	削減項目が無い。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	最低限の職員数である。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者負担はない。

**改善**

改善策	1次評価	妥当性	適切である。
		有効性	適切である。
		効率性	適切である。
		課題に向けた改善策	計画に沿って適正に実施している。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	計画どおり事業を進めること。
		効率性	事業費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。